

乗鞍火山、完新世の噴火史

Holocene eruption history of Norikura Volcano, central Japan.

*及川 輝樹¹、中野 俊¹、荒井 健一²、中村 圭裕²、藤田 浩司²、成毛 志乃²、岸本 博志²、千葉 達朗²、南里 翔平³

*Teruki Oikawa¹, Shun Nakano¹, Kenichi Arai², Keisuke Nakamura², Koji Fujita², Shino Naruke², Kishimoto Hiroshi², Tatsuro Chiba², Shohei Nanri³

1. 国立研究開発法人産業技術総合研究所、2. アジア航測株式会社、3. 首都大学東京都市環境学部

1. GSJ, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 2. Asia Air Survey Co., Ltd., 3. Faculty of Urban Environmental Sciences, Tokyo Metropolitan University

飛騨山脈南部の岐阜県・長野県県境に位置する乗鞍火山の最近約1万年間の噴火史を、テフラ層序とAMS¹⁴C年代測定を基に明らかにした。なお本報告は、乗鞍岳火山防災協議会が行った調査を基にして、その後検討を加えたものである。

かつて乗鞍火山における最近1万年間の活動中心は、火口縁に最高峰の剣ヶ峰（3026m）がある権現池火口その他、恵比須岳火口にもあるとされていた。しかし、恵比須岳火口起源のテフラとされていた噴出物は、年代や記載岩石学的特徴から、その火口起源のものではないことが明らかとなった。そのため、最近1万年間の活動中心は権現池火口周辺に限られる。

最近1万年間における乗鞍火山の噴火活動は、テフラ層序に基づくと、少なくともマグマ噴火を2回、水蒸気噴火を10回行っている。マグマ噴火は、いずれも水蒸気噴火に始まるが、その後火山灰を放出する噴火とスコリアを放出する噴火がそれぞれ発生した。スコリアを放出する噴火は、その初期に小規模な火砕流も発生した。総テフラ噴出量は数100～1000万/m³オーダーである。なお、権現池火口周辺から流れ出た溶岩のうち、保存のよい微地形が残存する溶岩も3ユニットあることから、溶岩を流す噴火も完新世に3回発生した可能性がある。また、個々の水蒸気噴火の総噴出量は、数10～数100万m³オーダーとなる。最新の噴火は、約500年前に発生した水蒸気噴火である。

およそ7300年前に降下した鬼界アカホヤ火山灰より上位のテフラユニットの数から算出した噴火頻度は、800年に一回となる。近隣の焼岳火山（100～300年/回）と比べると噴火頻度は少ないが、桁違いに少ないわけではない。

キーワード：火山噴火、テフラ、活火山、水蒸気噴火、マグマ噴火、飛騨山脈

Keywords: volcanic eruption, tephra, active volcano, phreatic eruption, magmatic eruption, Hida Mountain Range